

発電所敷地境界における年間被ばく線量評価について

- 発電所全体からの線量評価として、追加的に放出される放射性物質と敷地内に保管する事故後に発生した放射性廃棄物による敷地境界における年間被ばく線量を評価する。
- 中期的安全確保 施設運営計画報告書(その3)においては、現時点で設置計画がある設備・施設を前提に今後の運営状況を想定し、敷地境界における年間被ばく線量の最大値を約11mSvと評価している(2011年11月時点の評価)。
- 現在、年間被ばく線量を1mSv未満とする目標の達成のため、放出抑制や遮へい等の対応策について検討中。今後、各対応策の進捗把握、工程調整を進め、目標を達成していく。
- 2013年3月に向けて、年間被ばく線量1mSv未満達成の確認を行い、途中経過を定期的(四半期毎)に報告していく。
- 目標達成の確認のための評価は、評価時点における放出や保管の実績が1年間継続すると仮定し、年間被ばく線量の最大値を評価する。
- 至近の実績に基づく年間被ばく線量については、4月に評価し報告する予定。

以上